



最初にお読みください

# CentreCOM® 9048XL リリースノート

この度は、CentreCOM 9048XL（以下、特に記載がないかぎり「本製品」と表記します）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 2.3.2

## 2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 2.1.2 から 2.3.2 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

### 2.1 SNMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

プライベート MIB のうち、下記に関する MIB オブジェクトをサポートしました。

- 温度状態
- FAN 状態 / スピード / 回転数 (rpm)
- LED モード設定
- ポート LED 状態
- 省電力モード設定

### 2.2 UDLD

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「UDLD」

対向機器との間でフレームの到達性を監視し、フレームの送信、もしくは受信が正しく行えない単一方向のリンク状態を検出したとき、該当ポートをリンクダウンする UDLD (UniDirectional Link Detection) 機能をサポートしました。

詳細はコマンドリファレンス「UDLD」を参照してください。

### 2.3 QoS スケジューリングの 802.1p モード

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「QoS」

QoS スケジューリング方式を設定する SET QOS SCHEDULING コマンドに MODE パラメーターを追加し、QoS 処理で IEEE 802.1p 準拠のプライオリティータグ値に基づく方式を優先することが可能になりました。

### 2.4 ポリシーベース QoS

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「QoS」 / 「ポリシーベース QoS」

ユーザーが定義したポリシーに基づき、各種トラフィックに任意のサービスレベルを割り当てるポリシーベース QoS (Quality of Service) 機能をサポートしました。ポリシーベース QoS では、クラシファイアと呼ばれる汎用のパケットフィルタを用いてパケットを分類し、クラスごとに帯域を割り当てます。

詳細はコマンドリファレンス「ポリシーベース QoS」および「クラシファイア」を参照してください。

### 3 本バージョンで仕様変更された機能

---

ファームウェアバージョン 2.1.2 から 2.3.2 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。

#### 3.1 フォワーディングデータベースのエイジングタイムの拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「フォワーディングデータベース」

フォワーディングデータベースのエイジングタイムを指定する SET SWITCH AGEINGTIMER コマンドで設定できる最大値を、16383 秒から 1000000 秒に拡張しました。

#### 3.2 トランクグループに所属するポートの VLAN 設定変更

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」

トランクグループに所属するポートの VLAN 設定を変更することが可能になりました。

#### 3.3 EPSR リングポートと LDF の併用

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「EPSRアウェア」

EPSR リングポートと LDF 検出機能の併用が可能になりました。

#### 3.4 ポート認証：リンクダウンをともしない認証ポートの移動

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「ポート認証」

802.1X 認証、WEB 認証において、リンクダウンをともしない認証ポートの移動が可能になりました。

### 4 本バージョンで修正された項目

---

ファームウェアバージョン 2.1.2 から 2.3.2 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 コンソールにログインした直後にログアウトすると、本製品がリポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.2 本製品内部の温度が高温の時、トラップは出力されても SHOW SYSTEM コマンドで表示される Temperature が Warning にならないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.3 システム名を設定するとき、21 文字以上指定するとエラーになるにもかかわらず「Operation successful.」のメッセージも表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.4 プライベート MIB ファイルに、記号の誤記および MIB 定義での SMIV1/V2 の混在があり、SNMP マネージャーによっては本製品の MIB を正しくコンパイルできない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.5 SET PORTAUTH PORT コマンドで CONTROL パラメーターを設定した場合、SHOW LOG コマンド実行時に不正な MAC アドレスを持つ Supplicant 情報が出力されていましたが、これを修正しました。

- 4.6 ミラーリング機能を有効にした後、Web GUI から無効に設定、または SET SWITCH MIRROR コマンドの MIRROR パラメーターに NONE を指定して無効にしても、ミラーリングが動作していましたが、これを修正しました。
- 4.7 ENABLE DHCP Snooping LOG コマンドで DHCP Snooping のログ機能を有効にした状態で、SHOW CONFIG コマンドのパラメーターに ALL を指定してすべてのコンフィグ情報を表示すると、「ENABLE DHCP Snooping LOG=NONE」と表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.8 クラシファイアおよびハードウェアパケットフィルターの設定で、パラメーターの最大値を超えた場合のエラーメッセージが正しく表示されなかったり、クラシファイアの 1 ポートあたりの設定可能数を超えていないにもかかわらずエラーとなったりする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.9 作成済みの ACL のエントリーに対して SET ACL コマンドで割り当てポートを変更しようとしても、ポートの追加になっていた現象を修正しました。
- 4.10 Web 認証において、リンクダウンをとまなわない Supplicant のポート移動時に、Supplicant がログアウトしてからポートを移動しても、移動先で認証に失敗することがありましたが、これを修正しました。
- 4.11 SET IP コマンドで本製品の IP アドレスを変更すると、認証用 DHCP サーバーから適切な IP アドレスが割り当てられませんが、これを修正しました。
- 4.12 認証用 DHCP サーバーで割り当てられるホストアドレス以上の端末が接続された場合、範囲外のアドレスが割り当てられていましたが、これを修正しました。
- 4.13 Authenticator ポートの所属 VLAN が 1 つの場合、MAC ベース認証または Web 認証において再認証を繰り返すと空きメモリーが減少していましたが、これを修正しました。
- 4.14 RADIUS サーバーとゲートウェイを越えて認証を行う環境において、Accounting-Response パケットの IP アドレスがゲートウェイのアドレスの場合、Supplicant が接続されている状態で本製品を再起動すると、本製品がリブートを繰り返していましたが、これを修正しました。
- 4.15 SET PORTAUTH PORT コマンドでサポート対象外のパラメーターの組み合わせを設定した場合、GUESTVLAN パラメーターに VLAN ID を指定するとエラーとなりますが、VLAN 名を指定した場合は本来はエラーになるのが正しいにもかかわらず、エラーとならなかった現象を修正しました。
- 4.16 ポート認証のマルチプルダイナミック VLAN (VLANASSIGNMENTTYPE=USER 設定) においてゲスト VLAN 使用時、1 度認証に成功した後に再認証に失敗した場合、Authenticator ポートがすぐにゲスト VLAN に移行しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.17 Web GUI に対して、ログイン失敗などの不正アクセスを一定回数繰り返すと、本製品がリブートしていましたが、これを修正しました。

## 5 本バージョンでの制限事項

---

ファームウェアバージョン 2.3.2 には、以下の制限事項があります。

### 5.1 SNMP

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP マネージャのタイムアウトによって、同時に 5 個以上の SNMP マネージャから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。

### 5.2 RADIUS サーバー

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

- 802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。
- RADIUS アカウンティング機能が有効時に、RADIUS サーバーから Access-Reject パケットを受信すると、本製品から Failed 属性が付加された Accounting-Request パケットが送信されます。

### 5.3 スイッチング

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- スイッチポートの通信速度を変更するとリンクダウン・リンクアップが発生しますが、複数のポートを指定して、AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO のいずれかに設定を変更した場合、link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。
- 100Mbps 光ポート（SFP ポート）では、Jumbo フレームのフレーム長は 9000Byte 以下のサポートとなります。
- AUTONEGOTIATE でリンクしている 1000Mbps 光ポート（SFP ポート）に対して、通信モードを 1000MFULL に変更すると、リンクダウンするのが正しい動作ですが、いったんリンクダウンしたあと再度リンクアップすることがあります。
- 100Mbps 光ポート（SFP ポート）において、ミッシングリンク機能がない（または無効に設定されている）メディアコンバーターを経由して通信を行ったあと、本製品を再起動すると起動時にエラーが発生し、通信不可の状態になります。

### 5.4 ポートランキング

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- トランクグループを以下のいずれかの条件で複数作成し、512 個以上の MAC アドレスが使用される通信が発生している状態で、トランクポートの追加と削除を繰り返し実施すると、本製品がリポートすることがあります。
  - ・ トランクグループの所属ポートに 512 個以上のスイッチフィルターが登録されている
  - ・ トランクポートの通信モードがポート本来の通信モードと異なる設定になっている
- 通信により FDB に MAC アドレスが学習された状態でトランクポートの設定削除を行った場合、本製品がリポートすることがあります。  
トランクポートの設定削除を行う場合は、削除を行う前にトランクポートに接続されているケーブルを抜く、またはトランクポートの FDB に MAC アドレスが学習されないようにすることで、本現象を回避できます。

---

## 5.5 IGMP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」

- IGMP Snooping 有効時、IGMP パケットの通信中にグループの所属 VLAN を変更すると、IGMP Snooping 用のテーブルから変更前の VLAN 情報が削除されません。
- IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。
- IGMP Snooping と、EPSR アウェアまたはスパニングツリープロトコル併用時、経路の切り替えが発生したときにマルチキャストグループの登録がクリアされないため、切り替え前に登録されたルーターポートが残ったままになります。  
なお、EPSR アウェアについては、CREATE EPSR コマンドの DELETEMCAST オプションで、リングトポロジーチェンジ発生時にマルチキャストグループのエントリを FDB から削除する設定が可能です。

---

## 5.6 スパニングツリー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」

本製品の実装では、トポロジーチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートの FDB が消去されます。

---

## 5.7 Web GUI

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」

Web GUI でマルチプル VLAN(Protected Port 版) のポート設定を行う際、グループ番号の設定変更とタグなし / タグ付きの設定変更を同時に行うことができますが、個別に変更するようにしてください。

グループ番号の変更とタグなし→タグ付きの変更を同時に行った場合、該当ポートがタグなしとしてデフォルト VLAN にも追加されます。

---

# 6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および「CentreCOM 9048XL コマンドリファレンス 2.3.2 (613-001280 Rev.D)」の補足・誤記訂正です。

---

## 6.1 トリガーエントリーの作成

 **参照** 「取扱説明書」 85 ページ

取扱説明書の 85 ページ「トリガーエントリーの作成」において、CREATE TRIGGER コマンドの ENDTIME と STARTDATE パラメーターの説明に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

- ENDTIME

誤：

ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま終了しません（解除をしないうちがぎりパワーセーブモードが継続します）。

正：

ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま翌日になるまで終了しません。

○ STARTDATE

誤：

ENDDATEとENDTIMEの指定を省略すると、トリガーは起動したまま終了しません（解除をしないかぎりパワーセーブモードが継続します）。

正：

ENDDATEとENDTIMEの指定を省略すると、トリガーは起動したまま翌日になるまで終了しません。

---

## 6.2 動作時温度 45°C対応

 参照 「取扱説明書」 128 ページ

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

ファームウェアバージョン 2.1.0 から、動作時温度の上限値が 40°C から 45°C に変更されました。ファームウェアバージョン 2.1.0 以降で動作させる場合、本製品の動作時温度は 0 ~ 45°C となります。ただし、以下の条件下では、2.1.0 以降も動作時温度は 0 ~ 40°C です。

- 垂直方向設置時
- 以下の SFP モジュール使用時
  - ・ AT-MG8T
  - ・ AT-SPLX40
  - ・ AT-SPZX80

---

## 6.3 ポリシーベース QoS の最大帯域

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「QoS」 / 「ポリシーベース QoS」

コマンドリファレンスの「最大帯域（帯域制限）」についての記載に誤りがありました。下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

Note - 実際に制限される帯域は、MAXBANDWIDTH パラメーターで設定された最大帯域幅より高いレートとなる場合があります。トラフィックのフレームサイズが小さいほど誤差が大きくなり、最大 15Mbps 程度の誤差が発生します。

正：

Note - 本機能はネットワークの帯域幅ではなく、実際に転送するフレームに対する L2 ヘッダーを含むデータの転送速度の帯域を制限します。

MAXBANDWIDTH パラメーターで設定される最大帯域幅にはイーサネットフレームのプリアンブルなどのオーバーヘッドは含まれないため、トラフィックのフレームサイズが小さいほど誤差が大きくなり、設定値に対して最大 1.5 倍程度の誤差が発生します。

---

## 6.4 EPSR（トランジットノード）有効化時の動作

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「EPSR アウェア」

ファームウェアバージョン 2.1.1 から、EPSR（トランジットノード）を有効化するときリング接続ポートが両方ともリンクアップしている場合の動作（各種状態の設定）を次のとおり変更しました。

	バージョン 2.1.0 まで	バージョン 2.1.1 から
EPSR ドメインの状態	Links-Up	Pre-Forwarding
リングを構成する第 1 ポートの状態	Forwarding	Forwarding
リングを構成する第 2 ポートの状態	Forwarding	Blocking

## 7 未サポートコマンド (機能)

---

以下のコマンド (パラメーター) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

```
SET HTTP SERVER PORT
SET SYSTEM LANG
SET SYSTEM FAN
RESET PORTAUTH PORT
LOAD METHOD=TFTP FILE=filename SERVER=ipadd BOOT
SET IGMP Snooping HOSTSTATUS
SET MLDSNOOPING HOSTSTATUS
SHOW DHCP Snooping DATABASE NVS
SHOW DHCP Snooping HWFILTER
```

## 8 コマンドリファレンスについて

---

コマンドリファレンス「CentreCOM 9048XL コマンドリファレンス 2.3.2 (613-001280 Rev.D)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、あわせてご覧ください。

コマンドリファレンスのパーツナンバー「613-001280 Rev.D」はコマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>